

迂回の天才

人
物

笠松正樹（18）サッカー部員

飯田幸也（18）サッカー部員

金沢聡（16）サッカー部員

棚橋博己（17）サッカー部員

玉澤達也（56）サッカー部監督

山野瑞希（18）笠松の幼馴染

○市営グラウンド・サッカーコート内

サッカーコートに試合終了の笛が鳴り響く。

飯田幸也（18）と金沢聡（16）が歩いてコート中心に戻りながら、

金沢「引退っすね。寂しいっすわー」

飯田「心にもないこと言うなよ。俺等ら引退で嬉しいんだろ？」

金沢「まあ、ちよっと、そうっすねー」

飯田「お前、OBとして顔出したるからなー」

金沢「勘弁してくださいよー」

と、談笑する。

○市営グラウンド・ベンチ

部員が荷物を片付け始めている。

笠松正樹（18）が一人で座って、コ

ート内を見つめて唇を噛んで震わせる。

玉澤達也（56）が笠松の後ろから肩を叩いて、

玉澤「挨拶終わったら、すぐにベンチ空けな

いといかんから。お前も片付けしろよ」

笠松は頷いて、ベンチを離れる。

○市営グラウンド・サッカーコート脇

まばらな観客の中で、山野瑞希（18）
が腕を組んでコートを見つめている。

○市営グラウンド・サッカーコート内

横に並ぶ両イレブンたち。

審判の笛と共に顔を下げる。

○市営グラウンド・外

壁際に敷かれたブルーシートで部員が
着替えている。

棚橋博己（17）が辺りを探し、

棚橋「なあ、俺のレガース知らね？」

飯田「今更、いらねーでしょ。引退なんだし」

棚橋「引退記念にとっておくんだよ。引退記
念」

飯田「あんな臭いもん何処に置いとくんだよ」

棚橋「うるせー」

金沢「あ、これですか」

と、金沢がレガースを掲げる。

棚橋「お、それだわ。それ。サンキュー」

棚橋はレガースを受け取ろうとする。

金沢「これ、めっちゃ臭いっすよ」

と言つて、レガースを渡す。

棚橋「臭くねえわ！」

笑う飯田と金沢。

笠松が3人のやりとりを見て着替えの手を留めて不粹な顔をする。

玉澤が来て、

玉澤「：じゃあ一応、ミーティングだけするわ」

玉澤のほうを見る部員たち。

玉澤「着替えながらでええわ。これで3年生引退なんで、後は勉強頑張つて。1年、2年は2週間後から練習再開で。以上。じゃあ、お疲れ様」

玉澤、帰っていく。

部員たち「「お疲れ様です」

一人、返事せず玉澤を睨む笠松。

飯田「この後どうする？」

棚橋「引退だし、みんなで焼肉行こうぜ」

飯田「1、2年どうする？」

金沢「行くっす」

飯田「じゃあ5時焼肉丸牛集合でいい？」

笠松、リュックを背負い、早歩きで帰っていく。

棚橋「笠松、おい」

飯田「いいって。あいつは」

早歩き出歩く笠松は、リュックの紐を左右の手でそれぞれ強く握る。

○焼肉丸牛（夜）

焼肉を食べる部員たち。

飯田、棚橋、金沢が同卓を囲う。

棚橋が焼肉ひっくり返して、

棚橋「幸也は、どうすんの？」

飯田「どうすんのって？」

棚橋「いや部活終わったし、受験とか」

飯田「聞くことかよそれ。普通に東大文一択でしょ」

金沢「流石、先輩頭いいすからね」

金沢、網から焼肉を取る。

棚橋「おい、せっかく育ててるのに」

金沢「いいじゃないっすか。食べ放題なんだから」

飯田「博己も普通に受験して大学だろ？」

棚橋「俺は、お前みたいに成績無いから、早慶くらいだわ」

金沢「早慶でも結構いいじゃないですか」

棚橋「結構って、煽ってんのかよ」

金沢「えー、インテリじゃないっすか。早慶は」

飯田「うちの高校は旧帝大か医学部目指すかな。早慶にインテリは煽ってるわ」

金沢「そんなつもりないっすよ」

棚橋「良いんだよ。どうせ俺は私大の文系だよ」

金沢「俺も来年、棚橋さん追うつす」

棚橋「やめとけよ。お前も成績いい方なんだから」

金沢「そういえば、笠松さんは何処行くんすかね」

飯田「あいつ地方の体育大受けるってよ」

金沢「え、ヤバいつすね」

棚橋「まだサッカーがやりたいお年頃なんだよ。アイツは」

金沢「将来何になれるんすか。そんな所行って。大学でもサッカーやって」

飯田「良くて体育の先生ってところだろ」

金沢「終わりつすね。それ」

○公園（夜）

ミニパイロンを並べて、ドリブル練習をする笠松。

少し遠くから、笠松を見る山野。

笠松がパイロンボールを当てる。

山野「あー」

笠松がパイロンに当てた場所に戻ってドリブルを始めるも、少し進んだパイロンボールを再度当てて、ボールが山野のほうに転がっていく。

笠松「すいません。あっ」

山野ボールを拾って、

山野「ボール、取りましようか？」

笠松「もう取ってんじやん」

× × ×

2人並んでベンチに座る。

山野が、笠松のボールを足で転がしながら、

山野「今日、残念だったね。試合」

笠松「∴」

山野「もうちょっと、ボランチで拾えてたら

なあ」

笠松「∴」

山野「あ、あとシュートも2本くらいあった

し」

笠松「∴慰めになってない」

山野「：ごめん」

笠松「5ー0だし、俺出てないし」

山野「：うん。ごめん」

笠松「実際、どうだった？」

山野「どうもこうも、ぶっちゃけ酷いよ。下手だし、走らないし」

笠松「いきなりぶっちゃけるじゃん。俺そのチームのベンチなんだよな」

山野「知っている。ごめん」

笠松「いや、ぶっちゃけ、その通りだし」

山野「そう、いじけるなよ。晴れて引退でしょ？ 打ち上げとかないの？」

笠松「行かなかった。あの負けで、打ち上げとか」

山野「真面目だね。行けばいいのに」

笠松「アイツらと焼肉とか、行きたくないし、練習したかったから」

山野「練習って、引退じゃないの？」

笠松「引退だけど、サッカーは続けるから。」

1 日休んだら、取り戻すのに3日かかるん

だぞ」

山野「よく言われたな。それ小学生の時」

笠松「瑞希よくサボってたから」

山野「コンデイションングだよ。SDGsな

サッカーライフってやつ」

笠松「いいよな。こっちは休まずベンチで、

瑞希は、サボってプロ内定だもんな」

山野「コンデイションングだってば。でも、

サッカー続けるんだ。何処でやるの？」

笠松「群馬体育大学」

山野「強豪じゃん」

笠松「だから練習してんの」

山野「正樹の学校だったら、東大でも行ける

だろうに」

笠松「だって、そんな大学行ったら、サッカー

ーあんまりやれないじゃん」

山野「まあ、そうだけど」

笠松「今度はちゃんと試合出て、ちゃんと活

躍して瑞希と一緒にプレーしたいから」

山野「：プロってこと？」

笠松「：まあ、うん」

山野、笑って、立ち上がり、

山野「じゃあ、練習しないかね」

山野、ボールを持って、少し走って笠

松と距離を取り、

山野「ちよつとロングボールけろうぜ！」

笠松「おう！ オツケー！」

笠松が立ち上がる。

山野はボールを蹴って、笠松がトラップする。

了